



時間をかけたインターンシップで作業を見直し 委託することで余裕が生まれました



代表の万壽本佳明さんは脱サラして就農した30代の若手農業者。白ネギを中心とした野菜栽培や稲作など約1.5haを家族経営で行っています。大手企業勤務時代に人事課で障害者雇用に関わっていたこともあり、人手不足解消のために農福連携を考えました。

3日間かけたインターンシップでは、福祉事業所の利用者に白ネギの袋詰め作業などを依頼。どのように作業してもらうかは、利用者の性格や能力をよく知っている福祉事業所の支援員と話し合いながら一つ一

つの作業を見直し、効率よく作業できる工夫を重ねました。その結果、万壽本さんは任せられることができると判断し、委託することになりました。

家族でこれまで半日かかっていた作業を委託することで余裕が生まれたほか、利用者は作業に夢中になって働くこともあり、どんどん仕事内容について質問してくれまう。今後は種まきに挑戦するなど、違う作業もできるのではと前向きに考え、雇用も視野に入れています。

作業上の工夫点や報酬について

障害によっては数を数えるのが苦手なこともあるため、支援員の発想で牛乳パックを利用。箱に置くだけで数が分かるようになり、作業がスムーズに。発想の転換で難題が解決しました。

報酬はポイント制を導入。1ポイント＝1円で、作業ごとに支援員と金額を決めていく方法をとっています。



代表の
万壽本佳明(まんじゅもと・よしあき)さん
と妻の絵理香(えりか)さん

(2023年2月取材)